

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **05161575 A**

(43) Date of publication of application: **29.06.93**

(51) Int. Cl

A47K 17/02

(21) Application number: **03353200**

(22) Date of filing: **17.12.91**

(71) Applicant: **TOTO LTD**

(72) Inventor:
NOGAMI KAORU
OKAMOTO KATSUMI
KASAHARA HITOSHI
AOYAMA KENICHIRO

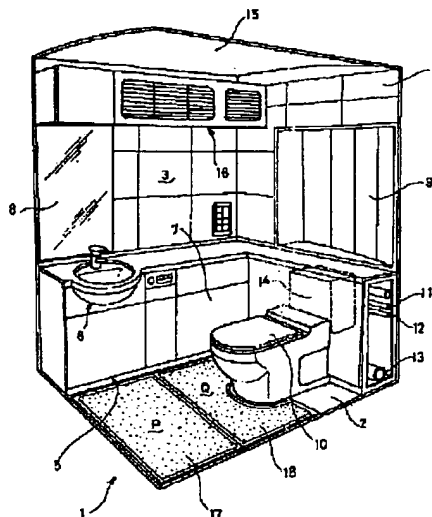
(54) TOILET MAT

(57) Abstract:

PURPOSE: To facilitate proper application of functions in a toilet to match purposes by regarding a toilet mat as a part composing the entire toilet space to divide it into zones in the toilet.

CONSTITUTION: In toilet mats 17 and 18 which are applied on a floor pan of a toilet 1 having a bench toilet 10, a hand washer 6 and the like, separate bodies of the toilet mats 17 and 18 are put adjoining on borders thereof to form zones P and Q for toilet and washing hands.

COPYRIGHT: (C)1993,JPO&Japio



ABSTRACT ATTACHED

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平5-161575

(43) 公開日 平成5年(1993)6月29日

(51) Int.Cl.⁵

A 4 7 K 17/02

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

Z 7014-2D

審査請求 未請求 請求項の数1(全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平3-353200

(22) 出願日 平成3年(1991)12月17日

(71) 出願人 000010087

東陶機器株式会社

福岡県北九州市小倉北区中島2丁目1番1号

(72) 発明者 野上 薫

福岡県北九州市小倉北区中島2丁目1番1号 東陶機器株式会社内

(72) 発明者 岡本 克巳

福岡県北九州市小倉北区中島2丁目1番1号 東陶機器株式会社内

(74) 代理人 弁理士 下田 容一郎 (外2名)

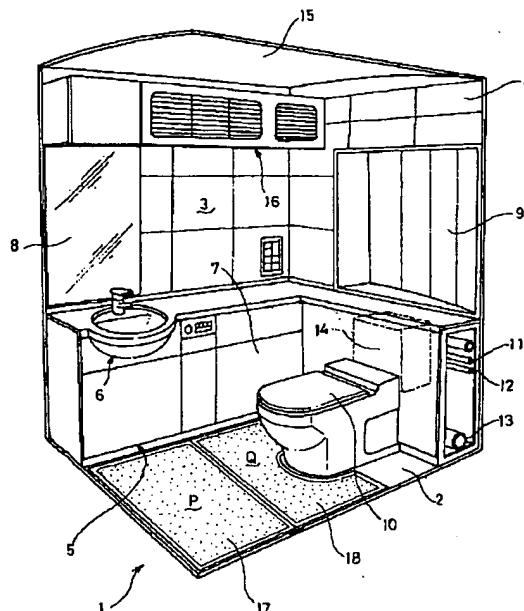
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 トイレマット

(57) 【要約】

【目的】 トイレマットをトイレ空間全体を構成する一因として捉らえることで、トイレ内をゾーン分けし、トイレ内の機能を使い分けし易くすること。

【構成】 腰掛便器10、手洗器6等を備えたトイレ1の床パン2に敷いたトイレマット17、18において、前記トイレマット17、18は別体のものを互いに境界を接して敷設することで、用便と手洗用のゾーンP、Qを形成することを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 腰掛便器、手洗器等を備えたトイレの床パンに敷いたトイレマットにおいて、前記トイレマットは別体のものを互いに境界を接して敷設することで、用便と手洗用のゾーンを形成することを特徴とするトイレマット。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、トイレ内をゾーン分けするトイレマットに関する。

【0002】

【従来の技術】 従来腰掛便器、手洗器等を設置したトイレにマットを敷く場合、人が腰掛便器に腰掛けたり、手洗器に向った際に、足が届く範囲にマットを敷いていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 この様なトイレマットは、腰掛便器に腰掛けたり、手洗器の前に立った時に、足の置き心地や暖かさだけを考慮して敷いてあり、トイレ空間全体を考慮し、トイレ内の機能を使い分けし易くする
20 ようなトイレマットの活用は考えられていなかった。

【0004】

【課題を解決するための手段】 上記課題を解決するために本発明は、腰掛便器、手洗器等を備えたトイレの床パンに敷いたトイレマットにおいて、前記トイレマットは別体のものを互いに境界を接して敷設することで、用便と手洗用のゾーンを形成する様にした。

【0005】

【作用】 上記手段によれば、別体のトイレマットが接する境界によって区分けが形成され、用便のゾーンと手洗
30 い、身繕い等のゾーンとがはっきり区別される。

【0006】

【実施例】 本発明の実施例を添付した図面により説明する。図1は本発明のトイレマットを設置したトイレの斜視図、図2は同じく平面図である。図に示すトイレブース1は、床パン2上に壁3、4に沿って平面視L型に一体型のコンポキャビネット5を配設し、このコンポキャビネット5の一方の壁3側に手洗器6、収納キャビネット7を設け、手洗器6の背部の壁3には鏡8を設けている。

【0007】 他方の壁4側には出窓9を設け、出窓9を臨む前述の平面視L型のコンポキャビネット5には腰掛便器10を取付け、この腰掛便器10のための給水管11、給湯管12、排水管13、及び局部洗浄装置の機能

部14等をコンポキャビネット5内に収納している。

又、壁3の上部の天井15を臨む部分にはユニット式空気調和装置16を設け、床パン2には、2つのマット17、及び18を敷いて床パン2の汚れを防止したり、保温のために床パン2から上がってくる冷気を防止する様になっている。

【0008】 トイレマット17は、図2に示す様に床パネル2のドア19側一杯に敷設して、手洗器6の前の床パネル2が手洗いや身繕い用のゾーンPを形成する。このトイレマット17の側と境界を接して敷設するトイレ
10 マット18は、腰掛便器10の周囲を覆う形で、用便のゾーンQを形成する。境界を接する両トイレマット17、18の縁には、図3に示す様に夫々カバー20、21を被せて、縁が傷まないようにしてある。又、両カバー20、21の底には夫々面ファスナー22、23を取付けて、床パン2側に設けた面ファスナー24に固着して、歩く度に両トイレマット17、18がずれないようにしてある。

【0009】 この様にトイレマット17、18によって
20 トイレブース1内をゾーンP、Q分けすることによって、比較的汚れやすい用便のためのゾーンQのトイレマット18は頻繁に交換して、トイレブース1内を清潔に保つことが出来る。尚、両トイレマット17、18によるゾーンP、Q分けをはっきりさせるため、色や模様を変え、あるいは交換頻度の違いに応じて、耐久性があり、洗浄し易い材質のものを敷設する。

【0010】

【発明の効果】 以上詳述した様に本発明によれば、トイレマットをトイレ空間全体を構成する一因として捉え
30 ることで、トイレ内のゾーン分けが出来、トイレ内の機能を使い分けし易くすることが出来る。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明のトイレマットを設置したトイレの斜視図である。

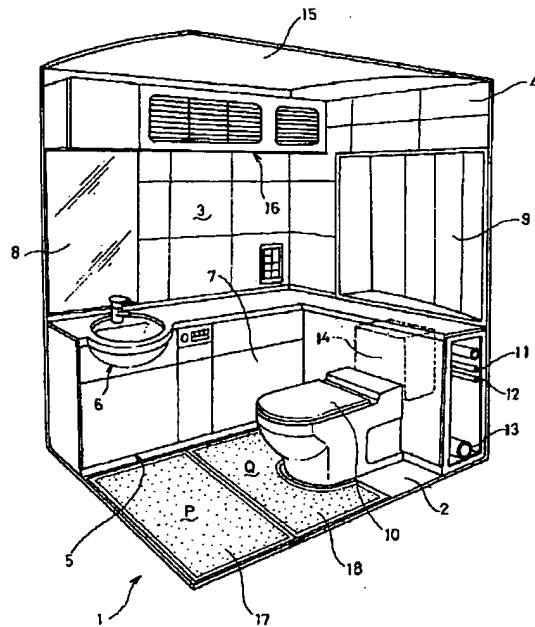
【図2】 同じく平面図である。

【図3】 図2のA-A線断面図である

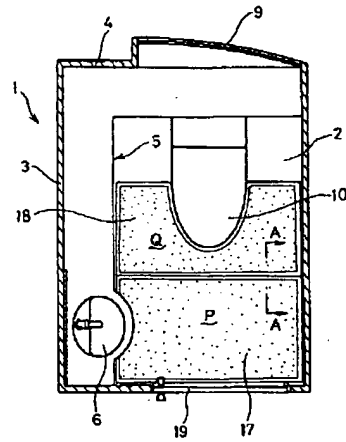
【符号の説明】

- 1 トイレ
- 2 床パン
- 6 手洗器
- 10 腰掛便器
- 17、18 トイレマット
- P 手洗い、身繕いのゾーン
- Q 用便のゾーン

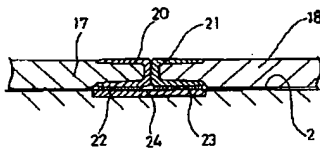
【図1】



【図2】



【図3】



フロントページの続き

(72)発明者 笠原仁史

福岡県北九州市小倉北区中島2丁目1番1
号 東陶機器株式会社内

(72)発明者 青山 憲一郎

福岡県北九州市小倉北区中島2丁目1番1
号 東陶機器株式会社内